

六軍事機密

別冊第一

大正臺灣諸部隊臨時兵器検査報告

軍事機密

大正十五年度臺灣諸部隊臨時兵器検査報告別冊第一

大正十五年度臺灣諸部隊臨時兵器検査報告別冊第一

目次

其一 要塞備附火砲現況調査表

其二 要塞備附兵器ニ關スル意見

附 大正十五年度臨時兵器検査基隆及澎湖島要塞備附火

砲検査要領

其一

要塞備附火砲現況調査表

要塞備附火砲中若干ヲ抽出、上其ノ現況
ヲ調査セシ結果ヲ表示スルコト次ノ如シ
表中單ニ腔中若ハ熾害ノ狀況ノミヲ記載
シアルモノハ他ノ部分ノ調査ヲ行ハサリシ
火砲ナリトス

要塞備附火砲現況調査表 其一 基隆要塞

牛稠嶺		公山尾				砲臺
克式十二一糧加農		安式六吋加農				砲種
(第四)	(第二)	五三八九 (第四)	五三八四 (第三)	五三七七 (第三)	五三七六 (第二)	砲番號
						彈數
五	九	三	三	三	三	火砲、現況
一腔中ノ程度概木可ナリ 二各部ノ機能概木可ナルモ發退機活塞桿屈曲シテアリ	一腔中隔牆上ニ長クシテ全周ニ亙ル大凹痕、ニ群ヲ存シ其ノ程度概木長ナリ 二各部ノ機能概木良好ナリ	一腔中ノ程度概木可ナリ 二各部ノ機能概木良好ナリ	一腔中ノ程度概木可ナリ 二各部ノ機能概木良好ナリ	一腔中隔牆上ニ稍大ナル腐蝕痕ヲ存シ、ニ股ノ程度概木長ナリ 二各部ノ機能概木良好ナリ	一腔中ノ程度概木可ナリ 二各部ノ機能概木良好ナリ	測定セル彈底距離 (一) 四〇(二) 四〇(三)
一活塞桿屈曲ノ原因ハ機體ノ左右運動ニ基因スルモノト認め 二彈底距離 (一) 四五六(二) 四五四	測定セル彈底距離 (一) 四四九(二) 四四五					活塞桿ヲ交換スルト共ニ駐退管前方同定部ニ對シ制式上ノ改正ヲ要ス
	腔中ノ損傷ハ過去ニ於ケル腔空ノ結果ト判定大成シ得レハ交換スルヲ可トス					所見

島察社	察仔楨			嶺稠牛		砲臺
糞加糧七十二	砲彈榴糧八十二			糞加糧一十二式克		砲種
(第三三) 二〇三二	(第七四) 二七四	(第七二) 二七二	(第七〇) 二七〇	(第三) 一四	(第一) 一三	砲番號
三二	三二	五八	二六	一一	七	彈數
方向點準機能不良、由ナルニ依リ之ヲ點檢セシニ鏈長ノ規正並各部ノ手入ニ依リ機能不良ヲ匡正シ得	砲床熾害ヲ受ク			一腔中ノ程度概不可ナリ 二各部ノ機能概不可ナリ		火砲ノ現況
			火門軸重下ノ傾向アル由ナルニ依リ之ヲ點檢ノ結果異状ヲ認メス 砲耳部腐蝕状況ヲ點檢セシニ中程度ノ腐蝕痕ヲ存ス	一腔底距離 一米四五(一米四五七)		摘要
			將來砲耳房ノ保存ニ關シテハ特に注意ヲ要ス	一米四五(一米四五四) 彈底距離		所見

白米 魔 堡 壘				木山堡壘	
安式八吋加農				八十二種榴彈砲	
五四二。	五四一四	五四一八	五四一五	二六七	二三四
七。	八六	七五	八六	四五	六八
一腔中、程度概不長好ナリ 二各部、機能概不可ナリ	一腔中、程度概不可ナリ 二各部、機能概不可ナリ	一腔中、程度概不可ナリ 二塞環空ニ敷捺ノ打痕 ヲ有シ緊塞良好ナラス 三其、他各部、機能概不可ナリ	一腔中、磨損大ナルミナラ ス地金ノ欠陥ニ基固スル 大筒蝕痕多ク其、程度 全破ニ於テ不良ナリ 二其、他各部、機能概不可ナリ	一腔中、程度概不可ナリ 二各部、機能概不可ナリ	一螺体、歪下状況ヲ點檢 セシニ機能ニ異状ナシ 二腔中、程度概不可ナリ 一腔中、程度概不可ナリ
測定セル彈底距離 一米二五(一米二五)	測定セル彈底距離 一米二五(一米二四)	測定セル彈底距離 一米二六(一米二五)	測定セル彈底距離 一米二五(一米二五)		
			砲身ノ交換ヲ 必ト入		

考 備	八 尺 門	砲 臺
	安式 八寸	砲 種
	五五。	砲 着 弾
	一三	砲 射 数
	一腔中ノ程度概テ良好ナリ	火 砲 ノ 現 況
	測定セル彈底距離 一水ニ五一	摘 要
白米彈丸第一砲車 ト交換スルヲ可ナ リト認ム	所 見	

一安式克式火砲ノ發射彈數ハ鹵獲以前ノモ、ヲ念マス
 二彈底距離ノ括弧内ノモ、ハ竣工試驗時ノモ、ヲ示ス

要塞備附火砲現況調査表 其二 澎湖島要塞

西 嶼 東 堡 壘				砲 臺
安 式 二 十 吋 加 農				砲 種
五九五一 (第四)	五四二六 (第三)	五五〇一 (第二)	五四一七 (第一)	砲 番 號
五 一	七 六	五 八	七 二	彈 發 射 數
<p>一腔中、腐蝕特ニ砲口部ニ達シ其ノ程度甚シ 二塞環室ノ程度概テ不可ナリ 三高低照準機ハ齒輪齒列ニ遊隙多ク轉北、回轉重シ 四方向照準機能ハ概テ不可ナリ 五揚聲機能ハ概テ良好ナリ</p>				火 砲 現 況
<p>一腔中、景況全右 二高低照準機ハ第一砲車ニ比シ稍輕シ 三方向照準機ハ概テ不可ナリ此方同鏡 四同鏡ニ長サ約三〇センチ、急激振リ有テ 五其他概テ不可ナリ</p>				摘 要
<p>一腔中、腐蝕痕跡地金瓶ハ其ノ程度大ニテ保存ノ景況不良ナリ 二塞環室ハ無敵、大折痕アリ使用ニ堪ヘズ 三其他概テ不可ナリ</p>				所 見
<p>測定機液量ハ満量ヨリ三五センチ減ス</p>				<p>揚聲用煙鎖ハ銅索ト交換スルヲ要ス (以下全シ)</p>
<p>測定機液量ハ満量ヨリ三五センチ減ス</p>				<p>方向鏡同内溝ハ加修セザレハ發射シ難ス</p>
<p>測定機液量ハ満量ヨリ三五センチ減ス</p>				<p>塞環室ハ交換ヲ要ス</p>

山鳩舞鷄		壘堡一第山北拱				壘堡西嶼西		砲臺
砲彈榴糧八十二								砲種
(第二二)	(第二一)	(第二六)	(第二五)	(第二四)	(第二三)	(第一六)	(第一三)	砲番號
四九	二三	三〇	三一	一七〇	一八五	四九五	二七五	發射數
一腔中八彈室ニ輕度ノ腐蝕痕アルノ外程度一般ニ良好ナリ	一腔中砲銃部米藥室全周ニ亘リ輕度ノ腐蝕痕アルモ一般ニ程度良好ナリ	一腔中、程度良好ナリ	一腔中、程度概ネ良好ナリ	一腔中、程度概ネ良好ナリ	一腔中、程度概ネ可ナリ	一腔中腐蝕ノ程度第一彈室ニ比シ大ニシテ尚藥室閉鎖機室ニ打痕殘痕多シ 二砲米燒害ヲ受ク	一腔中起發部附近米砲口部ニ近ク程度稍々大ナル腐蝕痕アリ	火砲ノ現況
								摘要
								所見

大 山 堡 壘				拱北山第二砲臺	
安 式 十 吋 加 農				克 式 十 五 心 軸 加 農	
五五〇〇 (第四)	五五〇九 (第五)	五四九五 (第三)	五四二二 (第二)	一四七	一四六
三二	二六	二七	三二	二七	二九
<p>一腔中ノ程度概ネ良好ナリ</p>	<p>一腔中ノ程度一般ニ不良ニシテ殊ニ地金上ノ局部的大腐蝕痕數個アリ又塞環空下部ニ打痕アリ</p> <p>ニ其ノ他各部ノ機能概ネ良好ナリ</p>	<p>一腔中ノ程度大ナリ又保存ノ景況一般ニ良好ナリ</p> <p>ニ其他各部ノ機能概ネ良好ナリ</p> <p>三砲架ヲ退却シテ彼坐機能ヲ檢セシニ若干ノ思ツキアルモ概ネ可ナリ</p>	<p>一腔中ノ程度大腐蝕痕ヲ存シ全機ノ程度良好ナラヌ(腐蝕痕ハ砲身地金製造上ノ欠陥ニ基因スト認メラルルモノ多クシ)</p> <p>ニ方向高低揚桿ノ各機能概ネ良好ナリ</p>	<p>一腔中ノ程度概ネ可ナリ</p>	<p>一腔中ノ程度概ネ可ナリ</p> <p>一腔中ノ程度概ネ可ナリ</p>
測定セル彈底距離 一米八二二	測定セル彈底距離 一米八一九	測定セル彈底距離 一米八二〇 ニ駐退機液量ニ満量ヨリ四五ヲ減ス	測定セル彈底距離 一米八二八	測定セル彈底距離 一米二九〇	測定セル彈底距離 一米二九〇

備考
一安式、克式火炮ノ發射彈數ハ鹵獲以前ノモノヲ念マス

其二 要塞備附兵器ニ關スル意見

(軍事機密ニ亘ラサル意見ハ報告本文中ニ在リ)

決行
ノ手續
済

一基隆要塞白米甕砲臺八吋加農第一砲車ハ
經費之ヲ許セハ八尺門砲臺ニ殘置シアル同種
砲ト交換スルヲ可トス

白米甕砲臺第一砲車ハ腔面ノ損傷甚シク廢
品ニ近キ狀況ニ在リ然ルニ八尺門砲臺ノ火砲
中二門ハ既ニ基隆重砲兵大隊演習砲トシテ撤
去濟ニシテ單ニ一門ヲ存スルノミ、從テ戰備ニモ
之ヲ使用シアラス火砲ノ狀態亦白米甕砲臺第
一砲車ニ比シ遠ニ良好ナルヲ以テ前記ノ處置ニ出

ツルヲ有利トス

所要經費ノ概要ハ乾燥期ニ於テ實施スルモノトシテ二千圓以内ノ見込ナリ

ニ基隆要塞牛稠嶺砲臺克式二十一糎加農第二砲車活塞桿ハ之ヲ交換スルト共ニ駐退管前方固定部ニ對シ制式上ノ改正ヲ要ス

本活塞桿ハ屈曲シアリ其ノ原因ハ後坐体ノ左右躍動ニ基クモノト認めラルルヲ以テナリ

三澎湖島要塞西嶼東堡壘十二吋加農第二砲車方向回轉軸タル砲床ノ圍塙及第四砲車塞鑲室ハ速ニ之ヲ修理スルヲ要ス

此等戦利火砲ハ衰損多キヲ以テ他ノ新式火砲ト交換スルハ望ム所ナルモ經費ト外交トノ關係上速ニ之ヲ實施スルコト困難ナル狀況ニ在ルヘシ故ニ兎モ角戦備ニ差支ナキ程度ニ之ヲ修理シ置クヲ要ス之カ爲前記ニ砲車ハ速ニ陸軍造兵廠ヨシテ現地修理セシムルヲ要ス 現地修理計畫立案上必要ナル事項ハ速ニ之ヲ調査ノ上兵器局ニ送付スル様希望シ置ケリ

四、澎湖島要塞外按社及猪母水ノ擬砲ハ經費及外交ノ關係之ヲ許セハ新式火砲ト交換スルヲ要ス 澎湖島要塞ニ現在スル火砲ハ衰損大ナルモノ甚カ

ラス而モ本要塞ハ臺灣海峽ヲ扼シ其ノ使命重大ナルヲ以テ經費及外交ノ關係之ヲ許スニ於テハ速ニ保轉砲塔ト交換ノ處置ニ出ツルヲ要ス

五、蟻害ヲ蒙リタル砲床ハ之ヲ速ニ改修シ戰備ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

基隆澎湖島要塞共ニ蟻害ヲ蒙リタル砲床甚カラス之カ改修ニ關シテハ中央部ニ於テ既ニ研究計畫中ナリト雖經費ノ許ス限リ成ルハク速ニ之ヲ實施スルヲ要ス

六、九糧及十二糧加農ハ之ヲ要塞兵器表ヨリ削除シ必要ノ方面ニハ三八式火砲ヲ充當スル如ク計畫スルヲ

要ス

九糧及十二糧加農ハ頗舊式ニ屬シ威力殊ニ彈道性
 彈丸效力及運動性ニ於テ甚遜色アリ現ニ基隆要
 塞ノ如キハ豫備火砲トシテ保有シナカラ殆之ヲ戰
 備ニ使用セサル狀況ニ在リ然ルニ一方三八式火砲ハ逐
 次他ノ新式火砲ト交換セラルルニ至ルカ故ニ動員上
 差支ナキニ至ラハ此ノ種火砲ヲ以テ九糧及十二糧加
 農削除ニ伴ヒ戰備上欽陷ヲ生スル方面ニ充當ス
 ルヲ可トス而シテ剩餘トナリタル九糧及十二糧加農
 ハ之カ手入ニ貴重ナル兵器費ヲ使用シ且之カ格納
 ノ爲兵器庫ノ増加ヲ伴フハ不利ナルヲ以テ不用兵器

トシテ處理スルカ若ハ永久手入ヲ行ヒタル儘露天ニ
格納シ置クヲ要ス



附

(検査要領第四節其二派別指定)

大正十五年度臨時兵器検査基隆及澎湖島要塞備附火炮検査要領

一、基隆要塞——社寮島砲臺、牛稠嶺砲臺、白米甕砲臺、

澎湖島要塞——大山砲臺、拱北山第二砲臺、加農、西嶼東砲臺、

八左、検査ヲ為シ得ル如ク準備ヲ行フモノトス

1. 彈丸、裝填

十五加ニ在リテハ榴彈其他ノ火炮ニ在リテハ堅鉄彈トシテ(無炸藥、

無信管)導帶ノ良好ナルモノニ實射ニ堪フルモノニシテ導帶不

良ト認ムルモノニ計四個ヲ準備スヘシ

2. 閉鎖機、機能検査

3. 揚彈方向及高低照準機、機能

4. 駐退機、機能検査(各砲臺毎ニ一門トス)

5. 所要ノ職工(夫ヲ附ス)

二、前號以外ノ諸砲臺、火炮ハ平常保管ノ状態ニ於テ検査ス

但シ二十八榴彈害砲床ハ各砲臺毎ニ其ノ被害最モ大ナルモノ

一門、床、鉦ヲ離脱シ置クヘシ
 参考 實施ニ際シテハ兵器ノ現況聽取、上變更セシモ、アリ詳
 細ハ要塞備附火砲現況調査表ニ在リ